

# 流山本町江戸回廊お散歩

金谷 -(2017/05/18(Thu))

久しぶりの「ドライブ」+「平地歩き」。懇切丁寧・適切ガイド兼ドライバーの亀村さん、感謝、深謝です。それにしても家を出てから帰宅までの15時間超におよぶ長丁場。氏の新職場の一茶双樹記念館をはじめ、江戸川河畔をふくむほぼ全域を網羅する流山の点と線。鰻屋3軒に食するに及ばず(休店)でのロースカツ定食への変更はややガックリながら……それでも大いに満足。長く記憶に残る流山行に。

宴会は、焼酎一升を5人で空ける盛況ぶり、健啖ぶり(手羽焼の塩気過剰には閉口しましたが)。最初は相撲テレビ観戦をしながらのチビチビ、間を置かず例によって例のごとしの酒精の駆け巡り……橋元さんの言う通り、「大いに盛り上がり」たの範疇でした。

OJ (2017/05/19(Fri)) ううう、うらやましや。写真レポートはないのかね。

というので、写真レポートを・・・後藤



午前10時松戸駅に亀村車の迎えをうけて一まずは、流山を車中から視察いたしました。流山市立博物館訪問のあと鰻屋3軒定休日にあたり、急遽トンカツに転向。キャベツの大盛りに本体が隠れている。



明治22年築の「寺田園旧店舗」を利用して万華鏡ギャラリー見世蔵がある。グリーンダイナミクスが一茶双樹記念館などと運営



万華鏡ギャラリーだけあって面白い仕掛けがあった。左の様にパチリと撮ると右のような「遺影にもってこいの写真が出来るのです。



写真右上部にスカイツリーが見える。



ゆったりと静かに流れる江戸川、流山は嘗て水運の街として大いに栄えた。



一茶双樹記念館・安政年間（19世紀中頃）の建物を解体修理し、茶会・句会等に利用できる双樹亭。  
俳人小林一茶とみりん醸造創設者の一人と言われる五代目秋元三左衛門（俳号双樹）とは交友があり、一茶はこの地を数十回訪れています。



双樹亭続き間「刀禰川は寝ても見ゆるぞ夏木立」



ご案内は亀村学芸員



杜のアトリエ黎明



おみやげを求めて



「赤城神社」 海拔約 15 メートル、周囲 350 メートル余りの小山の上に鎮座。この小山はかつての洪水の際、群馬県の赤城山の山体の一部が流れてきてここに流れ着いたものという伝承がある。流山という地名もこれに由来すると言われる。



おおたかの森



樹齢 100 年超のシラカシ、森の門番か



南流山近くの丘の上にある。真言宗智山派(本山は京都東山の智積院) 立派な本堂(でも庫裏はもっと立派でした)



南流山「酒場のんべい」にて、ネ・梓のいい雰囲気ですよ。



ホラ、だんだんこうなってくるわけヨ！

オワリ